

8月留学レポート

飛行機を2本乗り継ぎ、首都タリンにつきました。その後留学団体での全体オリエンテーションがあったので、他の国からの留学生を待っている間に日本からの他の留学生とタリンの旧市街をまわりました。街の雰囲気は明るく、街の所々で楽器を演奏している人や歌っている人がいました。道路はレンガなどで作られていて、物語の世界に入り込んだようでした。市場に入ると色とりどりの野菜や果物が並んでおり、中には日本では見たこともないようなものも並んでいました。日本の二倍ほどの大きさのスイカも並んで降り、驚きました。太陽が沈むのがとても遅く暗くなってきたのは、21:30くらいでした。朝ごはんにお粥のようなものがあったので聞いてみると、「porridge」といいよく朝ごはんに出てくるそうです。甘めのもち米のような味でしたが、ドロドロとしていました。その後、エストニアについてのプレゼンテーションで人口や面積、歴史などの説明や、伝統的な衣装を着た踊りなどを見ました。その後私たちも何種類か踊りを教わったので踊りました。また、エストニアの有名なお菓子や伝統的な食べ物なども食べました。その後は解散だったのですが、私たちがそのまま残っているとスタッフさんたちが踊り始めたので、私たちも参加しました。

ランゲージレッスンが始まりました。一番最初のレッスンだったので、曜日や自己紹介などの初歩的なものを教わりました。ホストファミリーへのサプライズのために、留学生のみんなで歌の練習を始めました。ランゲージレッスンをしていると、だんだん分かる単語が増えてきて、嬉しいです。お昼ご飯にはたくさんスープが出てくるので理由を聞いてみると、寒いから体を温めるためによくスープが出るそうです。その後グループになってエストニアについてKahootをしました。エストニアはサウナが有名なので、夜はみんなでサウナをしました。夜ご飯を食べているときに、食堂のおじさんに「ツルが欲しい」と言われたので、翌日、持っていった和紙で作ったものすごく喜んでくれました。

その後、ホストファミリーと会いました。ホストマザーが涙ぐんでくれて嬉しかったです。その後写真撮影をして、家に向かいました。山がほとんどないので、とても広い気がします。家につくと、ホストファミリーと少し話して、バーベキューをすることになりました。人口密度が低いからか、それぞれの家の庭がとても広く感じます。庭にはプールやリンゴの木、ブランコなどがありました。ホストシスターからプレゼントを貰ったりしてとても嬉しかったです。

ホストファミリーに料理を振る舞うことになりました。卵焼きとチャーハンを作ったのですが、どちらも美味しいと言ってくれました。卵焼きは醤油がなかったので塩で味付けをしたら甘めになってしまったのですが、美味しいと言って食べてくれました。チャーハンは炊飯器がなかったので鍋炊きをしなければいけなかったのが少し大変でした。

エストニアでは歩ける距離なら歩くことが好まれるようで、たくさん散歩をします。ここでは近所の人同士の付き合いが親密で、すれ違いざまに少し雑談をしたり、笑顔で手を降ったりします。エストニアでは誕生日に友人を招いてケーキを振る舞う文化があるのですが、少し前に近所の方に

ケーキを頂きました。



